

2020年度（令和2年度）の温室効果ガス排出量（速報値¹）について

1. 温室効果ガス総排出量²

2020年度³の我が国の温室効果ガス総排出量：11億4,900万トン（二酸化炭素（CO₂）換算⁴）

- 前年度の総排出量（12億1,100万トン）と比べて、5.1%（6,200万トン）減少。
- 2013年度⁵の総排出量（14億800万トン）と比べて、18.4%（2億5,900万トン）減少。
- 2005年度⁶の総排出量（13億8,100万トン）と比べて、16.8%（2億3,200万トン）減少。

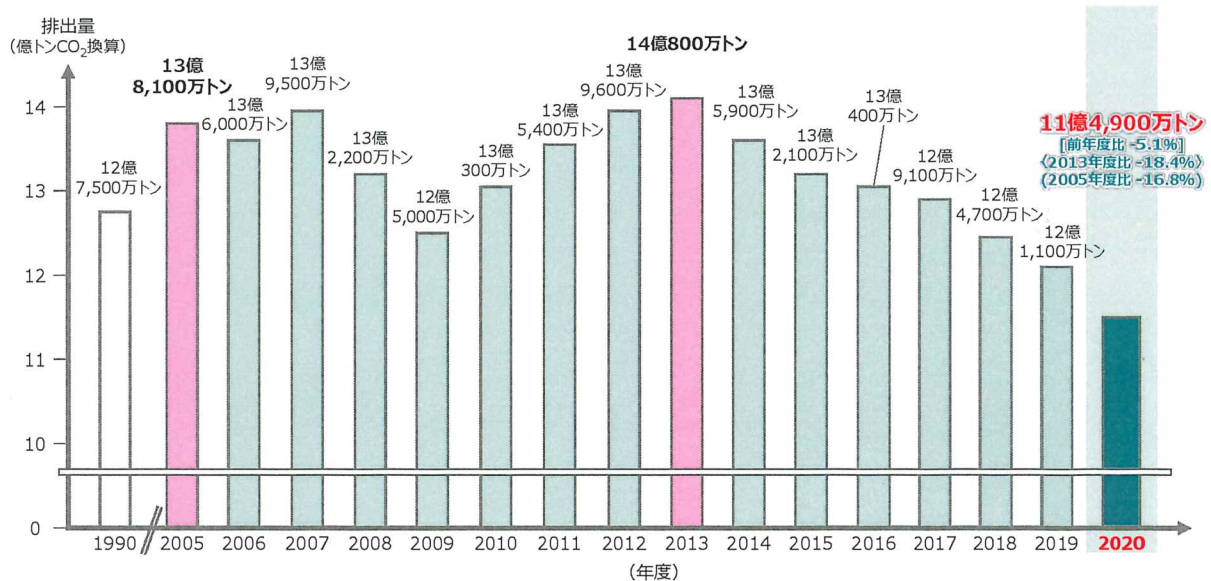


図1 我が国の温室効果ガス総排出量（2020年度速報値）

¹ 2020年度速報値の算定に用いた各種統計等の年報値について、速報値の算定時点で2020年度の値が未公表のものは2019年度の値を代用している。また、一部の算定方法については、より正確に排出量を算定できるよう同確報値に向けた見直しを行っている。このため、今回取りまとめた2020年度速報値と、2022年4月に公表予定の2020年度確報値との間で差異が生じる可能性がある。なお、確報値では、森林等の吸収源対策による吸収量についても算定、公表する予定である。

² 各年度の総排出量及び過年度からの増減割合等には、森林等の吸収源対策による吸収量は加味していない。

³ ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）、パーフルオロカーボン類（PFCs）、六ふっ化硫黄（SF₆）、三ふっ化窒素（NF₃）の4種類の温室効果ガスについては暦年値。

⁴ CO₂換算：各温室効果ガスの排出量に各ガスの地球温暖化係数^{*}を乗じ、それらを合算した。（^{*}地球温暖化係数（GWP：Global Warming Potential）：各温室効果ガスの温室効果をもたらす程度を、CO₂の温室効果をもたらす程度に対する比で示した係数。国連気候変動枠組条約インベントリ報告ガイドラインに基づき、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書（2007年）に示された100年値を用いた。）

⁵ 2021年10月に国連気候変動枠組条約事務局に提出した日本のNDC（国が決定する貢献）において、「2050年カーボンニュートラルと総合的で、野心的な目標として、我が国は、2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。」との削減目標を掲げている。

⁶ 我が国の2020年度の温室効果ガス削減目標については、2005年度比3.8%減以上の水準にすることとした。本目標は、2016年5月に国連気候変動枠組条約事務局に再提出したものである。